

既存調査結果を活用した移動困難者の評価手法に関する提案



道路交通研究部 道路研究室

主任研究官(博士(工学)) 小林 寛 研究官 今田 勝昭 室長(博士(学術)) 高宮 進

(キーワード) 移動困難者、公共交通利用困難地域、パーソントリップ (PT) 調査

4.

持続可能で活力ある国土・地域の形成

1. はじめに

今後、我が国では地方部を中心に、公共交通サービスの衰退や自動車運転が困難になる高齢者の増加等により、日常生活を営む上での移動で大きな課題が生じることが予想される。本研究では既存調査をもとに日常の移動実態等を踏まえ、移動が困難(不便)な者を抽出・評価するための手法の提案を行った。

2. 移動困難(不便)者の考え方

移動困難者と移動不便者の考え方については、公共交通(鉄道及びバス)と自動車の利用環境を考慮したもので、具体的には、図1に示すように公共交通利用困難(不便)地域に居住し、日常的な自動車利用が制約されている者をそれぞれ移動困難者・移動不便者と定義した。なお、公共交通利用困難地域については、最寄りの鉄道駅及びバス停が日常利用できないほど遠い地域、不便地域は、最寄りの駅・バス停が遠いため、日常的には利用しづらい(利用する気になれない)地域もしくは近くに駅があったとしても運行本数が少なく日常的に利用しづらい地域とした。

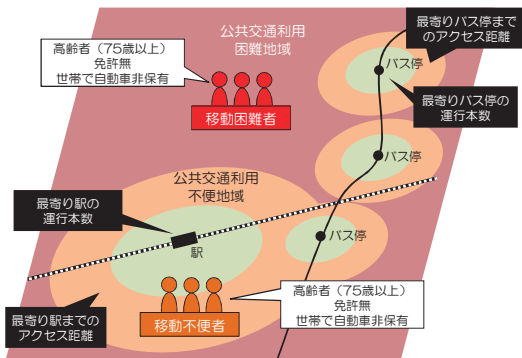


図1 移動困難(不便)者の考え方の定義

3. 公共交通利用困難(不便)地域の抽出

パーソントリップ調査データと公共交通の利用環

境(距離、運行本数)の関係分析結果から公共交通の利用困難(不便)地域の判断を行った(図2)。分析の考え方については距離が一定距離(限界距離)を超えるとその地域では当該交通手段を活用したトリップがほとんど見られない(困難:95パーセントイル値、不便:80パーセントイル値)ことを示す距離を判定した。移動困難(不便)者の抽出については、公共交通利用困難(不便)地域に居住し自動車を利用する機会に制約がある者とした。

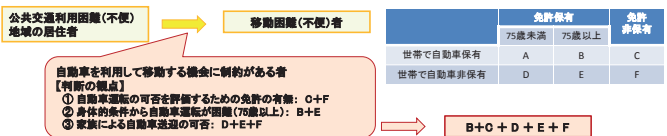
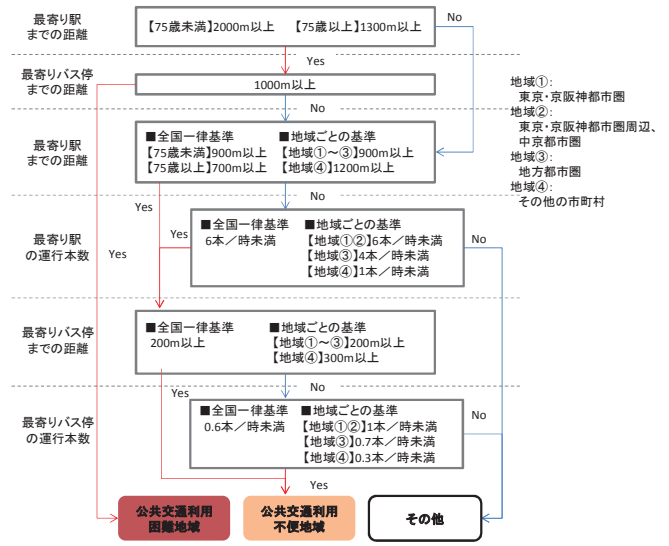


図2 移動困難(不便)者の抽出フロー

4. 今後の課題

設定値や設定条件等については、現況の材料を分析することで当面の値として設定したものであるため、今後の調査データの充実等に応じさらなる精度や説明力の向上を図っていく必要がある。